

S I P 第 3 期「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 8 年 3 月 19 日

豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築

プログラムディレクター 松本 英三

今般、「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」においては、研究計画の進捗、SIP 中間評価の結果、令和 8 年度の予算配分の決定等を踏まえ、「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」の変更を行いたい。主な変更点は以下のとおり。

1 新たなビジョンを踏まえた研究テーマの重点化

研究成果の社会実装を加速化するための「新たなビジョン」に基づき、以下の取組を追加し、達成目標の前倒しや、上方修正を実施。

サブ課題 A（大豆の育種基盤構築と栽培技術確立）

- ・多収性に加え、労働負荷軽減や環境負荷低減も可能とする優良品種を作出できるよう育種プラットフォームの機能を強化。
- ・品種の収量のポテンシャルを最大化するための「栽培支援 AI」について、対象ユーザーを広げるために水田輪作（大豆 + 稲・麦）に対応できるよう機能を強化。

サブ課題 B（肥料の国内循環型利用システム構築）

- ・国内での地域資源循環の早期実現を目指して、寒冷地（北海道）・温暖地（新潟）に加え、暖地（熊本）においてもたい肥化装置を設置し、地域資源循環の実証実験を実施。
- ・海水等からカリウムを回収する装置の開発は早期社会実装に向けスケールアップして検証を実施。

サブ課題 C（水産物の次世代養殖システムの構築）

- ・大規模沖合養殖技術およびリアルタイム飼育管理装置の普及に向けて、水揚げを効率化するための分養技術の開発に着手。
- ・ブリ養殖の収益性向上に向けて、低魚粉昆虫配合飼料の生産事業の設立に取り組むほか、ブリの優良種苗の生産と流通を拡大するためのシステムを開発する。

2 サブ課題 D（国産大豆等利用した豊かな食解析システムの開発）のスピアウト

- ・サブ課題 D については、成果の社会実装・市場開拓を加速化するため、BRIDGE ヘスピアウトして民間企業と連携したヘルスケアサービスの有効性実証を実施。

3 その他

サブ課題の集約に伴い、サブ PD の削減など体制変更を行うとともに、今後予定される研究開発責任者の変更に伴う選任方法について規定。